

手島精管株式会社

性別問わずキャリアアップ



製造業といえば男性社会と思われがちですが、弊社は代表が女性ということもあります。多くの女性社員が活躍しています。

女性管理職の割合も27%と高く、海外から弊社を希望し転職してきた女性スタッフもあります。育休・介護看護休暇などの制度面の充実はもちろん、男女問わず能力に応じてキャリアアップできる職場です。



業種: 医療デバイス用
部品製造販売

住所: 館林市下早川田町
306-1

女性が働くことが当たり前の時代になった。しかし、女性は出産や育児、介護といったライフイベントの影響を受けやすく、働き方や生き方にについて思い悩む人も少なくない。誰もが生き生きと働く職場環境とはどのようなものか。フジテレビアナウンサーから弁護士に転身し、幅広く活躍している菊間千乃さんに聞いた。

◆生き生きと働くために必要なことは何か。

働く女性が増えたと言つてもまだマイノリティー。にもかかわらず、女性をさらに分断するような仕組みがある。女性の中にも独身と既婚者、子育てや介護をしている人、正社員とパート社員などさまざまな人がいる。ところが、例えば子育て政策ばかり重視することによって、子どもがいる人といない人を分断するようなシステムになつていて。

マイノリティーである女性同士タッグを組み、日本のまだ変わらない部分に立ち向かわなくてはいけない。それにはまず、互いの立場を認め合うこと。それぞれの言い分があると思うが、女性同士でいざこざをやつてる場合ではないとすこし思つ。

従来のやり方に疑問

「なぜそういう分断が生まれてしまうのか。」

男性がシステムを作つているから。これまで男社会になじむようにならぬ張る女性が良しそれた。仕事第一で残業も男性と同じか倍やつて初めて評価される時代だつた。それがセクハラの原因にもなつていて、それがセクハラを流れる女性ができる女性で、いちいち目くじらを立てるような女は使いつづらう。

弁護士・菊間千乃さん

「歩きたい道 歩ける社会を」



今若い人たちがそこに嫌悪感を覚えるだろうし、今までのやり方に疑問を持つのも当然だと思ふ。男性が作った枠組みに当たるのではなく、自分が自分のやりたいように仕事をする。そして当たり前のように仕事で認められる。徐々に変わってきているとは思うが、まだまだこれからだと思う。

女性の管理職が増える利点は何か。

女性自身が出世を望んでいないという声を聞くが、「本当にそうなのかな」と思う。責任あるポジションに就くことは仕事をする上でやりがいにつながる。出世を望まないと言つてはいるのが事実だとすれば、その原因は何かを考えべき。例えば子育てをしているのに会社から何のサポートもなく、責任だけ増えるのであれば…という状態がそう言わせているのではないか。

隣で困つてゐる同僚や、つらい思いをしてゐる後輩がいても、同じ立場にいたら助けられないかもしない。でも自分が上のポジションにいえば、システムや環境を変えて、その人たちを助けることができる。自分がもっとといふ思ふ方向に会社を向けることができる。

失敗糧に次の未来を

「キャリアプラン通りに進まないときははどうしたらいいか。」

ライフィベントはいつどうなるか誰にも分からぬ。キャリアプランを描くことは大事だが、その通りにいかなかつたとしても「自分は駄目な人間」と思わないこと。私はフジテレビに入るとき、アナウンサーを10年やつたら弁護士になるというキャリアプランを描いていた。28歳で結婚して30歳と

32歳で子どもを一人ずつ産んで、産休を取つて司法試験の勉強をして資格を取つてフジテレビに復帰しようと漠然と。ただ、実際は、到着点は一緒でも、だいぶ違う人生を歩んでいる。最初に描いた通りの人生を、そのまま歩めることの方が少ないのではないか。状況は日々変わつていく。でも、描かないことは歩も前に進めない。描いたからこそ、違う道が見えてくる。何もないで後悔するより、断然動いた方がいい。失敗したっていい。そこにはきっと後悔はないと思う。失敗を糧に次の未来を自分で描いていくのははずだから。

人生に無駄なことは一つもないと思っている。私が大卒で即弁護士になつてから、今の年齢ならベテラン。でもアナウンサーの13年間が無駄だったかというと、そんなことは全くない。その時は無駄とか遠回りだと思うことが、後になつてあの時があつたからこそ、思うことは必ずある。

描いた通りにいかない。自分が選んだ道を直に進んでいれば、きっとたどり着ける場所がある。新型コロナワールドで外出自粛が続いた。どう過ごしたか。

2日に1冊のペースで読書をしていました。普段なかなか時間が取れずにできていなかつた勉強をしたり。あとは植物を育てた。プランターでハーブを作つたり、クチナシの花や

オリーブの木を植えた。新芽が出て花が咲いたり、毎日成長していくものに癒やされた。生きているなど感じた。

リモートも便利だが、むしろ人と話したり、会うことでの自分がどれだけ生きるパワーを得ていているかに気が付いた。人はやはり一人では生きていけない。人と触れ合つて協力する、語り合つて…とは、人間が本能として求めるものではないか。

私は仕事を「自分の想いを実現する手段」と思つてゐる。人と議論することで、新しい視点をもらつて、一人では到達できない深い思考に至つたり、数倍いい結果が出たり、そういう過程全てが楽しい。アナウンサー時代も弁護士になった今も、こんなにやりがいのある仕事ができて、お金までもらつてありがたいなど感じる。

一人で頑張る必要ない

「主婦やパートタイムというキャリアを選ぶ人もいる。専業主婦が悪いとは思わない。私の母も専業主婦だが、娘から見ても毎日楽しそう。大切なことは自分が選択した人生を歩むこと。家に入りたいと思えばそれでいい。ただ、働きたいと思つていては育児や介護で我慢しないといけないのはストレスになる。我慢しなければいけない時期もあるとは思うが、最終的には自分が歩みたいと思う道を歩んでほしい。」

現状では、まだまだ声を上げられずに困つてゐる女性がたくさんいる。一人で頑張る必要はない。声を上げて周りの助けを求めて、時には甘えて、前に進もう。昨日より今日、今日より明日、どんな小さな歩みでも、一人一人が自分の生きたい人生を歩めれば素晴らしい。